



第1871回 例会

2012-13年度RI会長: 田中 作次
 第2640地区ガバナー: 北中 登一
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 橋本隆
 幹事: 吉本正美
 会報: 前田吉彦



VOL. 39 No. 29

2013年2月13日(水)

事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~

司会者

橋本 隆 会長

唱 歌

“日も風も星も”

福留 栄仁 君



出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
52名	3名	10名	79.59%
1月30日修正出席率 87.76%			
1月の平均出席率 91.75%			

ニコニコ箱

(敬称略)

◇卓話頑張ってください。

福留・後藤・石井・木村・北村・小山・畔田
 楠本・前田・森本・武田・竹村・谷峯・谷中
 上原・早稻田・山本・吉田・吉本・丸山博

◇卓話、同級生頑張ってください。 中川

◇IM行ってきました。 愛須・玉置

◇無事、伊勢から帰ってきました。 平野

◇2月15日より3日間、白浜むさし様にて紀南水墨画協
 会の作品展を行います。皆様ご観覧下さい。 藍畑

◇小山先生、昨日は愛犬を助けてくださりありがとう
 ございました。 橋本

◇10日の串本ロイヤルホテルで朝寝・朝酒・朝湯を体
 験し、オハラショウスケさんを味わいました。 佐田

◇結婚記念日 本田

◇お花頂きます。 岡本

ンテーションに参加の平野好史君とユルバ・アルベ
 ソクオーネさん、ご苦労様でした。

■本日、例会終了後に定例理事会を開催いたします。
 理事・役員の方はお残り下さい。

幹事報告

■例会日時変更

◎高野山RC 3月1日(金)→2月24日(日)
 場所: 橋本商工会館8F
 <IM4組合同例会>

■メイクアップ

◎2月9日(土)・10日(日)第1組IM出席

愛須勝章君、橋本隆君、畑地誠君、泉房次朗君、
 片井貢君、小山實君、丸山勇人君、丸山博之君、
 中嶋伸和君、西谷次彦君、岡本博君、佐田一三君、
 沖史郎君、武田静也君、谷峯正美君、谷中順次郎君、
 玉置和男君、上原俊宏君、浦地章君、早稻田清司君、
 山本亘君、吉本正美君

◎2月12日(火)田辺はまゆうRC 杉若雅宣君

■回覧

◎週報「粉河RC」

◎「シーカ94号」「JCニュース1月号」

◎ふたば福祉会法人ニュース「この街で19号」

◎「やおきジャーナル59号」

◎「ハイライトよねやま155号」

◎ガバナー事務所より

「『第14回ロータリー国際囲碁大会』のご案内」

「関西国際空港での広報活動 ニュース・リリースに
 ついて」

会長報告

■本日のプログラムは会員卓話として、愛須勝章君と
 岩崎泰人君です。後ほど宜しくお願い致します。

■串本ロータリークラブから「第1組IMご参加等の
 御礼」が届いています。

■2月9日(土)・10日(日)、串本ロイヤルホテルにおい
 て第1組IMが開催されました。出席してくださった
 会員の皆様、ご苦労様でした。

■2月10日(日)、青少年交換プログラムの第4回オリエ

「『2013年ロータリー世界平和フォーラム広島』参加
申込終了のお知らせ」

◎2013-2014年度版 ロータリー手帳の申込表
2月20日例会を締切とします。今年度と同じサイズで
製作しています。申し込みをまとめて注文します。
支払はクラブ経費です。

委員会報告

新世代委員会
平野 好史君



青少年交換プログラムの第4回オリエンテーション
にユルバ・アルベンクオーネと参加してきました。
詳しいことは、後日ユルバより報告があります。

本日のプログラム

還暦卓話

岩崎 泰人 君



私、岩崎泰人と愛須勝章は去年無事に還暦を迎える事ができました。二人は小学校の同級生で、その当時は毎日のように遊んでいたものです。
学校から帰ると鞆をほうりなげて外へ飛び出し、それこそ夜の帳が下りるまで、というような毎日でした。
春はやまもも、秋はみかん、かき等を山へ調達に行き、夏は海や川で泳ぎ、普段はかんけり、ビー玉、鬼ごっこ等々、遊びの種類は無数です。
本日は皆さんと一緒に昭和時代の子供の遊びというものの遍歴を辿って行こうとおもいます。

なんちゃってLED

愛須 勝章 君



我流で覚えたもので、間違えている知識も多々あると思いますが、宜しくお願いいたします。

低消費電力で長寿命だが高価格と調光不可とか問題が有ったが日進月歩で解決している。

○特徴

LED照明は、蛍光灯や白熱電球といった従来型の照明器具と比較すると以下の特徴を備える。

○長所

長寿命・高信頼性

蛍光灯12000時間や白熱電球2000～6000時間に比べ40000～50000時間となっている。

「高信頼性・長寿命」ということは、一度設置すれば電球交換のような保守の手間が省け、部品や器具の購入コストも削減、または不要となることを意味する。

低消費電力・低発熱性

耐衝撃性

真空やフィラメントを必要としないため、衝撃に対して比較的強く作れる。

小型・点光源

ほぼ点光源であり発光部が小さく作れる。設置空間を小さくでき、デザイン上も利点ではあるが、放熱に工夫が求められ、ヒトの目に触れる場合には拡散板のような物も必要となる。

高速応答性

熱慣性がほとんど無いLED照明は、供給電源が断続すればそれに応じて高速度で明滅する[1]。ヒトの目では感知できないが、機械的な録画ではそれが問題となることもある[2]。

直流低電圧駆動

1つ1つのLED発光素子は直流低電圧の電源によって発光するので、100V交流の商用電源につなぐ通常の照明のように使用するには（基本的には）多少複雑な専用の電源回路が必要になる。

その他～虫が

他の特徴として、有害な水銀を使っていない点や、発光色を容易に変えられること、赤外線を出さないことで対象に熱を伝えない、また紫外線を出さないことで虫が寄ってこないなどの利点がある[出典 3]。

○欠点

直流低電圧駆動

1つ1つのLED発光素子は直流低電圧の電源によって発光するので、100V交流の商用電源につなぐ通常の照明のように使用するには（基本的には）多少複雑な専用の電源回路が必要になる。

熱に弱い

元々が半導体素子であるLED素子は熱に弱い性質がある。さらに使用時には低電圧大電流をかけて高輝度発光を行うため、発熱によって素子自身や周囲の封止パッケージが劣化して行き、最悪の場合にはLED素子が損傷を受ける。これを避けて長寿命・高信頼性を実現するには、正しい放熱が求められる[出典 2]。

高価格

2012年現在、白色を放つ高輝度LEDの製造には高価な半導体製造装置と高度な技術が必要とされ、LED照明そのものの生産・販売数が少ないことも量産効果を生まず高価格である理由の1つとなっている。

ですが

以前の照明制作に大がかりな工場が要らないようなので、新規参入、海外生産が可能で有るので高価格、効率とも解消され、一日に10時間点灯すると約1~2年で投資回収というレベルになるケースも出てきています。

8~10畳、天井高2400~2500mm、シーリング、10時間/日、22円/kw、洋間で比較すると白熱球は100W 5個、蛍光灯100w、LED5000lm~50W、ぐらいだと思うが、電気代はそれぞれ、1年で40,150円、8,030円、4,015円となる。

ダウンライトでは

80w、22w、11wぐらいで計算して下さい。

各電力会社が電気料金が10~20パーセントの値上げ申請中という状況なので、そろそろ早めに研究しておく方が賢明かもしれない。

ポリオ撲滅にはロータリーのリーダーシップが必要

ロータリー・ニュース：2013年1月16日

世界保健機関（WHO）でポリオ関連の副責任者を務めるブルース・アイルワード氏。1月16日、国際協議会にてポリオの最新情報を説明しました。

（写真提供：Rotary International/Monika Lozinska）



米国サンディエゴにて2013年ロータリー国際協議会が

開催される中、世界保健機関（WHO）でポリオ関連の副責任者を務めるブルース・アイルワード氏が講演しました。インドのポリオ無発生を例にとっても、世界で最も困難な保健問題に取り組むロータリーの力が実証されていると述べ、ロータリーの貢献を称えると同時に、この仕事を完遂するには、引き続きロータリーのリーダーシップが不可欠であることを強調しました。

協議会に出席したガバナー・エレクトを前に、アイルワード氏は世界のポリオ最新情報を説明し、また最近パキスタンで発生した予防接種従事者の襲撃事件にも触れました。WHOはボランティアや保健従事者の安全を確保するため、イスラム教社会から広く協力を得られるよう努力しています。「ポリオ撲滅活動は、これまでもさまざまな困難に直面してきましたが、方策や態勢を変えて難所を乗り越えてきたように、パキスタンでも引き続き、活動を続けていきます」

WHO、ユニセフ、米国疾病対策センターとともにロータリーが協力する世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）において、アイルワード氏は、インドで2年間、ポリオが無発生であることを説明しました。「インドではポリオ撲滅は無理」という専門家たちの予想を覆し、インドは昨年2月、ポリオ常在国リストから除外されました。今年1月13日まで、ポリオ検査で陽性の結果が出ない限り、インドで野生型ポリオウイルスの感染が抑止されたことがWHOによって正式に宣言されます。

残るポリオ常在国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国です。現在ポリオが発生していない国でも、ウイルス流入の危険性があるため、全世界でポリオを撲滅するには、全地域で予防接種を続ける必要があります。

GPEIにおけるロータリーの主な役割の一つがアドボカシー活動（政府や民間への働きかけ）ですが、ポリオ撲滅の実現が近づいている今、この働きかけが大変重要なものとなっています。ロータリーは1985年以来、ポリオ撲滅のために10億米ドル以上を寄付してきました。これに加え、ドナー国から90億ドル以上を確保する上でもロータリーが貢献してきました。今年、GPEIは7億ドルの資金不足に直面しており、目標を達成するにはアドボカシー活動が必要不可欠です。

ポリオ撲滅は私たちの手の届くところにあり、ロータリアンの協力が欠かせない、とアイルワード氏は訴えます。「ロータリーはこの疾病を撲滅するという歴史的な機会を与えてくれました。ロータリーのリーダーシップがあつてこそ、撲滅を実現させることができます」



平野君のおみやげです。